

情勢報告（平成 27年 7月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

J A土佐くろしおミョウガ部会が2回目の目慣らし会を開催



7月1日から9日にかけて、大間・浦ノ内・上ノ加江の各集出荷場において「出荷目慣らし会」が10回開催され215名が参加しました。各会場で「環境・安全点検シート」に沿って自己点検も実施しました。農業改良普及課は、水やけ症など腐敗対策についての情報提供や、ハウス内環境把握の重要性と機器に対する補助事業の紹介及びアンケート調査を行いました。これからの高温期の出荷に向け花蕾の腐敗等を出さないための対策を確認することができました。環境測定機器の導入については、今後、アンケート結果を基に推進していきます。

南海トラフ地震に備えた農業用燃料タンク対策



7月2日、農業振興センターにおいて、管内の燃油供給業者と南海トラフ地震対策について打ち合わせを行い、同業者が供給している燃料タンクの数、位置などを確認しました。農業改良普及課は、その後、防油堤の有無や加温機への配管の状況などについて現地調査を行なっています。今後も調査を継続し、9月末までには管内のJ A以外の事業者が供給している燃料タンクの現地調査を終了する予定です。

炭酸ガス施用等環境制御技術に関するグループ実証試験成果発表会（須崎地区）



7月14日、J A土佐くろしお集荷センターにおいて成果発表会を開催し、生産者21名、関係者54名合計75名が参加しました。農業改良普及課は、管内で実証したキュウリ、シシトウ、ピーマン、ミョウガ、ニラの成果について発表し、実証成果の周知と環境制御技術の推進を行いました。また、環境制御に係る補助事業を紹介し、生産者の意識向上と事業の周知を行いました。今後、管内各J Aと協力しながら、増収技術として有効な環境制御技術の普及推進に努めます。

環境制御技術講演会（須崎地区）



7月14日、J A土佐くろしお集荷センターにおいて、農業改良普及かと管内2つの研究会と共催で愛媛大学農学部の高山先生を招いて講演会を開催し、生産者26名、関係者49名合計75名が参加しました。高山先生に、増収のために重要な光合成と環境制御技術の必要性について分かりやすく説明していただき、知識の向上を図りました。また、各研究会と共催で開催したことにより、生産者の意識向上が図れました。今後、管内各J Aや研究会と協力しながら、増収を目指して有効な環境制御技術の普及推進に努めます。

J A津野山シシトウ部会目慣らし会



7月2日に甘長トウガラシ生産者を対象に、7月13日にはシシトウ生産者を対象に、J A津野山営農センター輝において目慣らし会を行い、甘長トウガラシ生産者22名、シシトウ生産者4名が参加しました。

農業改良普及課は、梅雨明け後の灌水や追肥管理、特に、甘長トウガラシでは尻腐れ果対策等今後の栽培管理について説明しました。

生産者からは、発生が心配されるうどんこ病について防除薬剤の使い方の質問があり、薬剤抵抗性に配慮した使用方法について説明し、防除の徹底を図りました。また、台風への事前対策を周知しました。

今後は、定期的開催される現地検討会において、営農指導員と連携して栽培技術の周知に努めます。

J A津野山ミョウガ部会目慣らし会



7月10日、J A津野山営農センター輝において、目慣らし会を開催し、生産者23名が参加しました。

農業改良普及課は、収量を増やすことができない要因を検討するため、環境測定機器を利用して自己のハウス内環境を把握することの必要性や環境測定機器を導入する事業について説明するとともに、この事業に係るアンケートを行いました。

今後は、環境測定機器を将来利用したい、興味があるという生産者に対して、J Aと協力し、環境制御機器導入やハウス内環境制御についてアドバイスしていきます。

J A津野山ナス部会目慣らし会



7月13日、J A津野山営農センター輝において目慣らし会が開催され、雨よけ米ナスと雨よけ小ナスの生産者19名が参加しました。

農業改良普及課は、灌水、追肥、整枝、病虫害防除などについて、日照時間が昨年より少ない状況を踏まえて説明し、今後の適正な栽培管理の徹底を促しました。また、異物混入の防止や品質の向上、経営改善などのため、GAP点検活動を行い、生産者の意識向上を図りました。

今後は、J A営農指導員と協力しながら、現地検討会や現地巡回を通して、個々の栽培技術の向上に努めます。